

工学研究科が高知県佐川町の小学校で出前授業を実施

9月6日(火)～7日(水)に工学研究科の久保 等技術専門職員が、高知県佐川町の小学5年生73名に出前授業を実施しました。

授業は電磁石をテーマにコイルを使い、黒板から音楽を流す実験等を行い、参加した生徒のみなさんからは「普段の授業でできない事ができて実験が好きになった。」「家に帰ったら家族に話したい。」等の感想をいただきました。今回の授業は佐川町との連携協力に関する協定の一環として実施されたもので、学習意欲向上や理科離れの対策として効果的な取り組みとなりました。

(工学研究科・工学部)



平成23年度 大阪大学係長研修(新任)実施

9月5日(月)～7日(水)までの3日間、大阪大学係長研修(新任)がコンベンションセンターで行われました。

この研修は新しく係長(相当職)になった者39名(出向者含む)を対象に、係長に求められる役割を学ぶために実施されたものです。

今年度は特にケーススタディとして、係長が実際に抱えている事例や起こる可能性のある問題・課題を取り上げたことで、活発な意見交換が行われ、現実には起こりうる問題への解決策について実践的に学ぶことができました。研修では、受講生全員が意欲的に課題に取り組み、所定の課程を修了しました。今後の係長としての活躍が十分に期待されます。(総務企画部人事課)



大阪大学フォーミュラレーシングクラブが全国大会で3位入賞

大阪大学フォーミュラレーシングクラブは、第9回全日本学生フォーミュラ大会(9月5日(月)～9日(金))において、国内外合わせて87校の参加校の中、総合3位に入賞しました。

昨年の「総合優勝」にこそ及ばなかったものの、第1回大会への参戦から9年間にわたる、大阪大学の教職員の皆様や多数のスポンサー企業様のご協力とメンバーの熱意と努力により着実に実績をあげております。次年度は同大会だけでなく、海外大会へも挑戦し、大会理念であり、自分達の共通理念である「次世代の技術者育成」のもと、一層の成長を目指したいと考えています。(工学研究科・工学部)



チームメンバーと大会参戦フォーミュラカー「浪速11」

日韓高校生交流事業

9月7日(水)と27日(火)、文部科学省の委託で独立行政法人国立青少年教育振興機構による日韓高校生交流事業が国際教育交流センターで行われました。韓国で日本語を学び日本留学を希望する高校生、指導者、駐大阪大韓民国総領事館の領事等、のべ72名が本学を訪れました。国際教育交流センターでは、教員がDVDで本学を紹介し、また、韓国人留学生会会長等が大阪大学での研究生生活の紹介と質疑を行いました。高校生からは、大学受験、大学生活、日本の教科書等の質問があり、阪大生との率直なコミュニケーションが行われました。

(国際教育交流センター)



薬学部 新入生合宿研修

薬学部新入生合宿研修が、9月29日(木)、30日(金)の日程で、京都府立ゼミナールハウスで新入生82名、教職員12名が参加して実施されました。

これは、専門教育の授業が始まる1年次2学期の開始直前に、薬学部の現状と将来に対する認識の再確認とともに、学生と教職員の親睦を深めることを目的として行っているものです。

研修では学生向けに履修に関する説明に始まり、少人数のグループで、学生と教員が学生生活や薬学の未来について話し合うなど、実りある研修となりました。

(薬学研究科・薬学部)



大阪大学大学院理学研究科附属 「基礎理学プロジェクト研究センター」発足

10月1日(土)に「理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター」が発足いたしました。

理学研究科は基礎理学を担う部局として、基礎的研究や萌芽的研究を重点的に推進しており、その中から発展が期待される研究は、プロジェクトとしてさらに研究が進められています。「基礎理学プロジェクト研究センター」は従来の枠にとらわれない研究環境を実現する新たな教育研究施設として、「学際理学部門」、「プロジェクト研究部門」、「産学連携部門」、「放射線管理部門」の4部門からなり、基礎的・萌芽的研究の支援を推進することにより基礎理学の発展に務めます。

(理学研究科・理学部)



除幕式の様子

法学研究科附属法政実務連携センター・学生支援室主催 公開講義「こうして8人が選ばれた:名物社長の採用面接～就活を通じて『世界に通用する日本人』とは何かを考える～」

10月7日(金)、法学研究科附属法政実務連携センター・学生支援室では、NHK制作局第1制作センター経済・社会情報番組組専任ディレクター片岡利文氏をお迎えし、公開講義を開催しました。

当日は、現在の日本が陥っている問題を捉えた上で、21世紀の国際社会において日本と日本人が果たすべき役割は何かということ、また、そのような課題に取り組む一企業を例に、日本企業のあるべき姿や就職活動において何が求められているのかをお話いただきました。

(法学研究科・法学部)



工学研究科 博士前期・後期課程10月入学式挙行

工学研究科博士前期・後期課程10月入学式が、10月7日(金)に、銀杏会館内阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて挙行されました。文部科学省の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム(前期及び後期課程)」に採択されている、英語特別プログラム・コース及びエラスムス・コース(MAPNET)に入学した外国人留学生と、後期課程10月新入生が出席しました。

初めに、掛下知行工学研究科長から新入生歓迎の式辞が述べられ、入学式出席者全員の紹介があった後、博士後期課程知能・機能創成工学専攻の金永錫さんが代表挨拶を行い閉会しました。

(工学研究科・工学部)



手話講習会を開催

10月13日(木)に障害学生支援ユニットによる手話講習会(初級編)が始まりました。

障害学生支援ユニットでは例年第2学期に手話講習会を開催してきましたが、「もっと手話を学ぶ機会が欲しい」という多くの受講者の声を受け、今年度は第1学期の入門編(全12回)に続き、第2学期に初級編(全10回)を開催することとしました。今回の初級編の受講者は19名で講習会初日には互いに教え合ったり、講師の冗談に笑いが起こったりとなごやかな様子がみられました。

(学生支援ステーション/学生部 学生・キャリア支援課)



手話講習会(初級編)の様子

大阪大学技術職員研修(第28回)実施

大阪大学技術職員研修(第28回)が、10月13日(木)、14日(金)、産業科学研究所において行われました。

この研修は、本学技術職員に対し、職務に関する必要な知識・技術等を広く修得させるとともに、自己啓発、相互啓発の機会を与えることにより、職員の資質の向上を図ることを目的として実施されたもので、15部局から29名の技術職員が参加しました。

今回の研修では、東日本大震災の発生を踏まえ、大学の安全対策や災害対応等に関連するプログラムが多く組まれました。学内外の教員による講義、技術職員講演・発表、先輩講話、パネルディスカッションやグループ別演習など、2日にわたる研修を、受講生全員が無事修了しました。

(総務企画部人事課)



学生交流学際融合教育セミナー開催

10月14日(金)、15日(土)の2日間、学生交流学際融合教育セミナーをコスモスクエア国際交流センター(大阪南港)で開催しました。同セミナーは、複眼的視野と学際的視点の涵養を目的とし、様々な研究科の学生が集い・議論するもので、今回は筑波大学および早稲田大学と共同で開催し、外国人留学生11名を含め37名の学生が集いました。参加した学生達は、「プロジェクト2021ー10年後の社会と科学技術」をテーマとして、英語でのディスカッションも交えて、時おり各大学の担当教員のアドバイスを受けながら、活発に討論を行い、盛況のうちに2日間を終了しました。

(学際融合教育研究センター)



セミナーの様子

知的財産センター・法学研究科附属法政実務連携センター共催 公開講義「金融危機について」

10月18日(火)、知的財産センター・法学研究科附属法政実務連携センターでは、金融庁監督局長の細溝清史氏をお招きし、公開講義を開催しました。

様々なデータを用いて金融危機が世界、日本、金融機関、政府、家計などにどのような影響を与えているか、また今後の見通しなどについてお話し頂きました。その後の質疑応答では、金融情勢だけではなく、経済・行政を中心に幅広い課題について活発な意見が交わされました。

(知的財産センター、法学研究科・法学部)



英語特別コース入学式挙行

10月19日(水)に、英語による科目履修及び研究指導により修士号及び博士号を取得できる基礎工学研究科英語特別コース博士前期課程及び博士後期課程の入学式が、リニューアルした基礎工学国際棟において挙行されました。

式では、関係者45名が出席し、佐藤宏介教育担当副研究科長の司会のもと、岡村康行研究科長から式辞があり、平成23年4月及び10月に入学した12カ国28名のうち代表者4名による記念スピーチがありました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



平成23年度 部局長等による合同巡視の実施

10月17日(月)～10月21日(金)にかけて、平成23年度部局長等による合同巡視を実施しました。合同巡視は、安全衛生管理の重要性について理解を深めていただくとともに、当該部局における危険箇所等の改善に役立てていただくことを目的に毎年1回実施しています。当日は、各事業場の総括安全衛生管理者をはじめ、各部局長、安全衛生委員会委員、安全衛生管理部が参加し、合同で安全点検を行いました。

本学では、「安全衛生管理チェックシートを用いた各研究室等による自主管理」と「安全衛生管理部巡視員による第三者的チェック」を組み合わせた安全衛生管理システムを運用しています。今後ともチェックシートによる自主点検の継続と定期巡視へのご理解、ご協力をお願いします。

(安全衛生管理部)



尾山安全衛生管理部長(左)と
難波生命機能研究科長(右)

学術情報リテラシー教育担当者研修(大阪大学会場)開催

10月19日(水)～10月21日(金)の3日間、附属図書館は国立情報学研究所との共催で、学術情報リテラシー教育担当者研修を総合図書館において開催しました。本研修は、全国の国公立大学の図書館職員を対象とし、学術情報リテラシー教育を企画・運営するための知識と技術を習得することを目的に実施するもので、平成16年度以降大阪大学を会場に毎年開催しており、今年は53名が参加しました。研修では、講義、実践報告のほか、活発なグループ討議も行われ、充実した3日間となりました。

(附属図書館)



グループ討議に熱心に取り組む受講者

第2回 こども科学の教室「スーパー光塾」開催

10月23日(日)、第2回こども科学の教室「スーパー光塾」が銀杏会館において開催されました。抽選で選ばれた小学4年生～6年生50名と保護者50名が参加し、学生・大学院生38名が先生として光の魅力を伝えました。

初めに河田聡フォトニクスセンター長の挨拶、そして「光のお兄さん」による全体講義、分光器の作成の後、子供たちは各会場に分かれ、光を使った工作、ゲーム、展示などを楽しみながら光科学に触れました。

(フォトニクス先端融合研究センター)



学生支援ステーション「Station Café（第4回）」開催

学生支援ステーションは10月26日(水)、第4回学生支援ステーション Station Café「カプラを体験してみよう!!! 一頭と心を少～しやわらかく」を、カプラの販売とカプラを通した教育に関する講演等を手がけるエル株式会社からインストラクターの方にお越し頂き、開催しました。

小さな長方形の木の板から自由に何かの形を作ったり、ただ高く積み上げたりするといった創作をきっかけに、学生どうしの交流がなされました。木の板がぶつかる際に出る音が素晴らしく、木琴の心地よいメロディが終始会場中に響いているようでした

(学生支援ステーション／学生・キャリア支援課)



カプラ体験の様子

平成23年度 大阪大学安全衛生講演会の開催

10月26日(水)医学部銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて平成23年度大阪大学安全衛生講演会を開催しました。本講演会は、大阪大学安全衛生週間及び全国労働衛生週間(10/1～10/7)にあわせて開催しているもので、今年度は読売新聞大阪本社の永田広道・編集局科学部長をお招きして「危機管理広報のあり方」についてご講演いただきました。

講演では、事件や事故が発生した場合、その時々のタイミングで「分かったこと」「公表できること」は何かを常に考え迅速に社会に発信していくことが危機管理広報において大変重要であること、また、学究の場という公正・中立な立場から客観的な情報発信を行うことも大学に強く望むという内容に、参加者は真剣に聞き入っておりました。

(安全衛生管理部)



講師の読売新聞大阪本社・永田科学部長

平成23年度 大阪大学特志解剖体追悼法会実施

11月1日(火)、四天王寺本坊(大阪市天王寺区)において、平成23年度大阪大学特志解剖体追悼法会が執り行われました。

追悼法会では、米田悦啓医学部長、脇坂聡園学部長、及び両学部の学生代表が慰霊の詞を捧げた後、僧侶の読経の中、両学部教員代表、御遺族代表、大阪大学白菊会会長及び両学部学生代表の焼香に続いて参列者の焼香が行われました。次に、神経機能形態学講座の遠山正彌教授から参列者に対して挨拶があり、厳粛な雰囲気のうち閉会となりました。

ここに改めて御遺族の方々に感謝を申し上げますとともに、故人の御冥福を心からお祈りいたします。(医学系研究科・医学部、歯学研究科・歯学部)



個人情報保護担当者等研修を開催

11月2日(水)、個人情報保護担当者等研修をコンベンションセンターにおいて開催しました。

本研修は、各部署で個人情報を取り扱っている職員を対象に、個人情報保護の重要性の理解や意識の高揚を図り、今後の業務における個人情報保護の取組みに活かすことを目的に実施しているものです。

今回は、NECシステムテクノロジー株式会社の中曽勝士氏を講師に迎え、個人情報保護の必要性和保護のための取組みポイントについて、様々な事例紹介をもとに興味深い話をわかりやすく解説いただき、約100名の参加者は熱心に聴講しました。

(総務企画部評価課)



国費学部留学生への大学進学説明会開催

日本語日本文化教育センターでは、11月4日(金)に、国費学部留学生に対して、大学進学説明会を開催しました。

説明会は、32の国立大学から説明者を招き、各大学の特色ある専門分野や地域の特徴などを説明するとともに、質疑応答を通じて詳しい情報の提供をするために実施しているものです。

当日は、文部科学省留学生交流室の長川英樹専門官および奥西峻介センター長の挨拶の後、参加大学による大学紹介があり、その後、個別会場に分かれての説明及び質疑応答が行われました。

留学生は各大学の説明に熱心に耳を傾け、教育内容や日頃の疑問点について積極的に質問を行い、「今後の進学先大学を考える上で大いに参考になった」などと好評でした。

(日本語日本文化教育センター)



附属図書館企画展特別イベントで講演&試飲会を開催

11月6日(日)「ミニレクチャー 竹鶴が求めたウイスキー その魅力と愉しみ方」を、総合図書館内図書館ホールで開催しました。これは、附属図書館で開催中の企画展『国産ウイスキーの父 竹鶴政孝 〜はじまりの場所〜』(会期：11月1～29日)の特別企画として実施したものです。

企画協力企業の支援を得て開催した前半の講演ではジャパニーズウイスキーの祖、竹鶴政孝のパイオニア精神溢れる足跡を辿り、後半ではその「竹鶴の求めた味」をテイスティングしました。60名を超える来場者は、竹鶴の情熱と「芳醇な香り」にしばし酔いしれていました。

(附属図書館)



試飲会の様子

第52回 まちかね祭

11月4日(金)より6日(日)までの3日間にわたり、豊中キャンパスにて第52回まちかね祭が開催されました。今回は天候に恵まれない日もありましたが、アカペラサークルによるライブなど、多数の学生団体による様々な企画が行われ、多くの方にご来場いただきました。また、本学の大学祭をリレーして開催している東日本大震災チャリティバザーでは、4万円余の収益を日本赤十字社へ寄付致しました。

最後に、この場を借りて大学祭の開催にご協力をいただいた関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

(大阪大学大学祭中央実行委員会広報局)



ともに学ぼう!!歯病フォーラム

歯学部附属病院では、11月7日(月)、弓倉記念ホールにおいて、教職員等を対象に、伏見工業高校ラグビー部総監督であり、当院のアドバイザーボード委員でもある 山口良治先生の「One for All All for One」と題した講演が行われ、指導者として第一線で活躍されてきた経験を踏まえ、チームワークの重要性や人材育成について具体例を交えた実践的な講演となりました。

会場には他部局からの参加者を含め、定員を超える約100名の参加者が詰めかけ、盛会のうちに終了しました。

(歯学部附属病院)



大勢の参加者を前に熱弁をふるう山口先生

平成23年度 大阪大学OJT育成者研修実施

OJT育成者研修が、11月7日(月)コンベンションセンターにおいて、今年度初めて実施されました。研修は、職場における部下育成で重要な位置にある主任・係長(相当職)にある職員に対し、育成者としての役割や、具体的なOJT(On the Job Training)を進めるうえで必要とされるコミュニケーション能力を修得することを目的として、実践的演習を中心に行われました。受講者からは実際の業務に活かせる内容であると好評でした。

(総務企画部人事課)



演習風景

意識改革に関する講演会を開催

11月8日(火)に意識改革に関する講演会が開催されました。

工学研究科Project“C”の取組事例からは教職協働をテーマにこれからの職員の役割について紹介がありました。また、山形大学の樋口浩朗氏からは楽しみながら専門性を高めることで大学職員の可能性を広げたご経験を、熱意を込めて講演され、若手職員から管理職までの約200名の参加者は先駆的な取組みに熱心に聞き入っていました。

実施後のアンケートでは、「気付きを得た」等の好意的な感想を多数いただきました。ご意見を踏まえながら、職員の意識改革に向けた取り組みを充実させていく予定です。

(総務企画部総長秘書室)



講演中の樋口浩朗氏

日本の大学で初! 大阪大学産業科学研究所が世界トップレベルのナノテク研究機関imecと包括的共同研究契約を締結

産業科学研究所は、11月16日(水)に、ナノテクノロジー／ナノエレクトロニクス研究分野で世界トップレベルのコンソーシアムである、ベルギーのimec(アイメック)と、共同研究契約と研究者の相互交流を積極的に推進する包括的共同研究契約を、日本の大学として初めて締結しました。今回の共同研究テーマは、ナノカーボンエレクトロニクス、バイオアプリケーション、プリンティッドエレクトロニクス、有機エレクトロニクス分野からスタートし、順次、医・工・情報連携テーマ等に拡大していく予定です。

本締結により、大阪大学のナノサイエンスとimecのナノテクノロジーとの相補的共同研究で、次世代産業の創生が期待されます。

(産業科学研究所)



imecのLuc van den Hove プレジデント／最高経営責任者と山口明人産業科学研究所長との調印式の様子

平成23年度 名誉教授会の開催

11月28日(月)、リーガロイヤルホテルの光琳の間にて、名誉教授と総長をはじめ役員、部局長等約130名の出席のもと名誉教授会が開催されました。

世話人の鈴木胖名誉教授の司会により会が始まり、名誉教授物故者への黙祷、新名誉教授紹介、工学研究科森田清三教授の講演、総長から本学の運営に関する抱負及び近況報告が行われました。

懇親会では総長からの出席部局長等の紹介の後、世話人の多胡圭一名誉教授の発声による乾杯で開宴し、会の最後には世話人の藪司郎名誉教授の発声により、世話人と歴代総長を中心に万歳三唱が行われ、盛会のうちに閉会しました。

(総務企画部総務課)



講演を熱心に聴き入る参加者

「業務改善アイデア賞」表彰式開催

「業務改善アイデア賞」表彰式が11月24日(木)、総長室において行われました。

今回は、平成22年10月から平成23年9月までに応募のあった9件のうち採用が決定された2件の提案に対して以下のとおり授与されました。

	所 属	氏 名	提 案 題 名
業務改善 アイデア賞 優秀賞	生命機能 研究科	三坂 誠 松尾 武宜	教員発注分の支払い手続きにおける購入 依頼書の確定及び検収入力処理の省略
業務改善 アイデア賞	言語文化 研究科	阪田 正雄 曾我 克成 新垣 哲也	研究生の除籍規程を定めること及び出納 規則第19条を改正することによる、不良 債権の貸倒損失に伴う事務処理の簡素化 について

なお、今年度も引き続き業務改善に資する提案を募集していますので、総務企画部総務課事務改革係 (soumu-soumu-jimukaikaku@office.osaka-u.ac.jp) までお寄せください。
(総務企画部総務課)



前列左から 三坂氏、平野俊夫総長、松尾氏、
後列左から 阿部顕三理事・副学長（事務改革
推進本部長）、阪田氏、曾我氏、新垣氏、
尾山眞之助理事・副学長（業務改善WG主査）

平成23年度 永年勤続者表彰式挙行

平成23年度永年勤続者表彰式が、11月24日(木)、コンベンションセンター会議室1において、被表彰者33名のうち27名の出席のもとに挙行されました。

式は、平野俊夫総長から被表彰者一人一人に表彰状が授与された後、式辞が述べられ、続いて被表彰者を代表して医学部附属病院の田鳥知子氏が答辞を述べ閉式しました。

今年度表彰された方は、次のとおりです。



松 原 弘 文 (本部)	永 原 奈緒子 (医病)
武 上 慎 二 (本部)	立 川 知 恵 (医病)
松 岡 達 也 (本部)	田 原 和 子 (医病)
浦 川 由香里 (本部)	清 川 知 子 (医病)
植 田 匠 (本部)	佐 藤 和 彦 (医病)
平 奥 秀 幸 (本部)	長谷川 浩 典 (医病)
青 木 茂 (外)	楠 秀 明 (医病)
山 田 貴 之 (医病)	神 崎 正 志 (医病)
田 鳥 知 子 (医病)	竹 田 雅 彦 (歯)
松 井 浩 子 (医病)	松 井 貴 志 (工)
瀬 尾 恵 子 (医病)	林 由樹雄 (工)
長 峰 明 彦 (医病)	岩 田 喜 一 (工)
大河原 幸 (医病)	花 木 信 夫 (工)
山 見 和 美 (医病)	高 木 謙 司 (基礎工)
垣 内 智 子 (医病)	田 中 秀 和 (基礎工)
和 田 和 子 (医病)	村 上 泰 世 (蛋)
丸 山 由美子 (医病)	

(総務企画部人事課)

理学研究科・理学部 消防訓練実施

理学研究科・理学部は、10月13日(木)に多数の教職員及び学生の参加のもと、消防訓練を実施しました。

この訓練は、教職員及び学生への防火・防災意識の高揚を図ることを目的として、例年実施しているものです。

今回は、地震を想定した避難訓練、放水訓練、消火器訓練を行った後、教育ビデオを視聴し、最後に安全衛生管理部梅田幸治特任教授から「安全な避難経路の確保について」と題した、ご講演をいただきました。

(理学研究科・理学部)



消火器訓練の風景

薬学研究科 消防訓練実施

薬学研究科では10月17日(月)、学生・教職員合わせて約200名の参加を得て、通報・避難・消火を連携した総合訓練を実施しました。

恒例の消火訓練では、薬学研究科に実際に設置されているものと同じ消火器を用いて、7名の学生が積極的に参加し、実のある訓練となりました。

今回の総合訓練で、火事に直面した場合の対応を学び、また防火意識の向上が図られました。

(薬学研究科・薬学部)



産業科学研究所で消防訓練を実施

産業科学研究所では、10月の大阪大学安全衛生強化月間に合わせて、総合的な消防訓練を10月19日(水)に茨木市消防署下井分署の指導のもと実施しました。

今回の訓練は、第2研究棟5階の研究室で火災が発生したことを想定した通報訓練及び避難訓練を実施した後、水消火器を用いて教職員・学生による消火訓練を行い、あわせて、AED(自動体外式除細動器)の操作についての説明を受けるものでした。

訓練には、教職員及び学生等約230名が参加し、火災予防意識の高揚と、火災発生時の対処心得及び救急蘇生を要する際のAEDの操作方法の習得が図られました。

(産業科学研究所)



平成23年度 本部事務機構火災・地震総合訓練実施

10月24日(月)、平成23年度本部事務機構火災・地震総合訓練を本部事務機構職員約180名が参加して実施しました。

訓練は、地震により火災と室内での閉じ込めが発生したことを想定し、「通報・救出・消火・避難訓練」、「水消火器による初期消火訓練」および「屋内消火栓使用訓練」を行いました。

訓練後、管理権原者である阿部顕三理事・副学長から3月に発生した東日本大震災を踏まえて、火災・地震による被害拡大の防止に努めて欲しいとの挨拶がありました。

(財務部資産決算課)



イシバシ・ハンダイ映画祭

11月19日(土)、昨年度に続き今年も「イシバシ・ハンダイ映画祭」が大阪大学会館スタジオで行われました。アニメ製作・クリエイティブプロデューサーの田中翔子さん、また飛び入り参加でアニメーション+ビジュアル・アーティストの早川貴泰さんをゲストにお招きし、石橋商店街・大阪大学をシーンに含む10分未満のショートムービー・全12作品を上映しました。

東日本大震災を受けて話し合った結果出てきたテーマ“つながり”をコンセプトにした今回のイベント。当日は雨模様にもかかわらず、本学・石橋商店街双方から多くの皆様にご来場いただき、非常に温かみのあるものとなりました。詳しくはイシバシ・ハンダイ映画祭公式ホームページ：

<http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/ihfes/info/> をご覧ください。

(イシバシ・ハンダイ映画祭実行委員)



秋篠宮殿下が適塾をご訪問

10月29日(土)秋篠宮文仁親王殿下が、同日中之島センターにおいて開催された生き物文化誌学会へのご臨席に先立ち適塾を訪問されました。適塾では、江口太郎適塾記念センター長、村田路人文科学研究科教授の案内でご見学になり、緒方洪庵ゆかりの古文書等の説明では時折ご質問をされるなど、熱心にご覧になりました。また、ご来館にあたっては、フィリップ・ドゥ・ヘーア駐日オランダ王国特命全権大使、マルガリータ・ボット在大阪・神戸オランダ総領事も同行されました。

(適塾記念センター)



熱心に説明を聞かれる秋篠宮文仁親王殿下
(説明者：村田文学研究科教授)

第2回 適塾見学会開催

10月30日(日)第2回適塾見学会を開催しました。この見学会は適塾記念会会員を対象に、適塾及び緒方洪庵に縁のある史跡等を訪ね、本学教員により専門的な解説を行う事業で、今回は約20名の参加者が、緒方洪庵、八重夫人の墓所である龍海寺や大坂の蘭学者の墓地等を訪れました。

(適塾記念センター)

緒方洪庵、八重夫人の墓所（龍海寺）で説明する
橋本孝成適塾記念センター特任研究員（左）



適塾講座開催

9月6日、10月4日、11月1日（いずれも火曜日）の3回にわたり、中之島センターを会場に適塾講座を開催しました。これまでは適塾記念会の会員を対象とした講座でしたが、今年度から一般受講者も募り、澤井実経済学研究科教授による「大阪の産業発展と大阪高等工業学校・大阪帝国大学工学部」と題した講義が行われ、各回約20名が受講されました。

(適塾記念センター)



講義を行う澤井教授

阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット 「公開講座フェスタ2011」開催

11月18日(金)さいかくホールにおいて、今年で14回目を迎える「公開講座フェスタ2011」が開催され、大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県の29の大学・研究機関が参加して全31講座が開講されました。大阪大学ならびに適塾記念会として本年は、村田路人文学研究科教授による「江戸時代の開発と治水」と題した講義が行われ、約60名が受講しました。

(適塾記念センター)



講義を行う村田教授

適塾記念センター開所式挙行

11月30日(水)、中之島センター9階交流サロンにおいて、適塾記念センター開所式が挙行され、マルガリータ・ボット在大阪・神戸オランダ総領事にも臨席いただき、総長、役員、部局長等が出席されました。式は、木下タロウ副センター長の司会で進行し、センター紹介映像を放映の後、平野俊夫総長から、開所にあたって、大阪大学の源流である適塾の保存と顕彰事業等について、当センターが責任を持ってしっかりと行っていく旨の力強い挨拶があり、江口太郎適塾記念センター長による概要説明、来賓を代表して、多田羅浩三大阪大学名誉教授・適塾記念会幹事から祝辞をいただきました。

(適塾記念センター)



平野総長からの挨拶



多田羅名誉教授からの祝辞

適塾記念講演会開催

11月30日(水)中之島センター佐治敬三メモリアルホールにおいて適塾記念講演会を開催しました。本講演会は、大阪発のオリジナルな学術、文化の成果をお話いただく講演会であり、今回は適塾記念センター開所記念講演会と位置づけ、大久保規子法学研究科教授による「環境政策最前線ーリオ会議20周年に向けてー」及び吉川秀樹医学系研究科教授による「整形外科の歴史と最先端治療」と題した講演が行われ、約80名の参加者がありました。

(適塾記念センター)



大久保教授



吉川教授

米国・ライス大学学長の表敬訪問について

10月18日(火)、ライス大学 David W. Leebron 学長一行が、高橋明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは斗内正吉レーザーエネルギー学研究センター教授、小川哲生理学研究科教授他、国際交流オフィス国際交流課職員が同席し、両大学間の学術交流協定の調印式が行われた後、今後の両大学間の交流およびアメリカ合衆国 NSF のファンディングに基づき、ライス大学がアメリカ側の窓口となり、全米の学部学生を日本に派遣する「ナノジャパンプログラム」(<http://nanojapan.rice.edu/>) について意見交換が行われました。



右：David W. Leebron ライス大学学長
左：高橋明理事・副学長

総長等への表敬訪問

米国・エネルギー省御一行の表敬訪問について

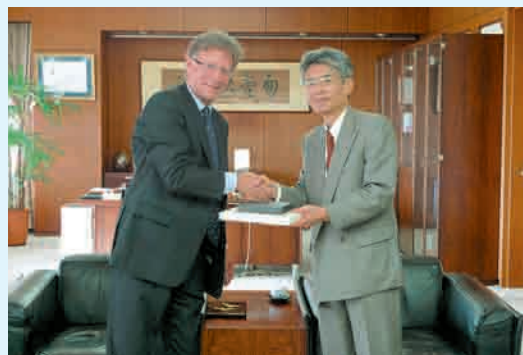
10月3日(月)、Dr. Steven E. Koonin 次官等米国エネルギー省御一行が、馬場章夫理事・副学長、相本三郎理事・副学長、東島 清理事・副学長、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、レーザーエネルギー学研究センター疇地 宏センター長、同西村博明副センター長、核物理研究センター岸本忠史センター長、同谷畑勇夫特任教授、向井弘志国際交流課長が同席し、プラズマや原子核といったエネルギー資源の重要性について意見交換が行われました。



理事表敬の様子（役員会議室にて）

APRU事務局長の表敬訪問について

10月31日(月)、このたび APRU 事務局長に就任された Dr. Christopher Tremewan 氏が、平野俊夫総長、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、向井弘志国際交流課長、住吉賢司国際交流課長補佐が同席し、APRU の活動状況の報告ならびに今後の展開について意見交換が行われました。



記念品の交換を行う Dr. Tremewan 氏と平野総長

ベトナム・カントー大学御一行の表敬訪問について

11月7日(月)、Dr. Nguyen Anh TUAN 学長をはじめベトナム社会主義共和国カントー大学御一行が、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、生物工学国際交流センター仁平卓也センター長、グローバルコラボレーションセンター住村欣範准教授、向井弘志国際交流課長が同席し、高橋理事・副学長による大学紹介、また、両大学間の今後期待される学術・研究交流について意見交換が行われました。



記念品の交換を行う Dr. TUAN 学長と高橋理事・副学長

在日本南アフリカ共和国大使館・科学技術部公使の表敬訪問について

11月10日(木)、在日本南アフリカ共和国大使館 Mr. Buti Cecil Masoka 科学技術部公使が、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、工学研究科村中俊哉教授、同牟田浩明助教、向井弘志国際交流課長が同席し、Masoka 公使による南アフリカ共和国の国立大学の紹介、また、両国における国際科学技術協力推進事業についての報告と意見交換が行われました。



【中央2名】左：Mr. Masoka 公使
右：高橋理事・副学長

平成23年秋の褒章・叙勲受章者

○褒章

大学院情報科学研究科教授（元大阪大学理事・副学長）
大学院工学研究科教授

にし 西 ふく 福	お 尾 ずみ 住	しょうじ 章治郎 しゅん 俊	ろう 一	紫綬褒章 紫綬褒章
--------------------	-------------------	-------------------------	---------	--------------

○叙勲

大阪大学名誉教授（元理学部教授）
大阪大学名誉教授（元言語文化部長）
大阪外国語大学名誉教授（元大阪外国語大学附属図書館長）
大阪外国語大学名誉教授
元大阪大学微生物病研究所事務部長
元大阪大学経理部車庫長

た 田 さい 齊	なべ 邊 どう 藤	ひろ 廣 とし 俊	き 城 お 雄	瑞宝中綬章 瑞宝中綬章 瑞宝中綬章 瑞宝中綬章 瑞宝双光章 瑞宝単光章
は 法 かつ 勝	きょう 橋 ふじ 藤	かず 和	ひこ 彦 たけし 猛	
つじ 辻	もと 本	まさ 雅	よし 靖	

※なお、上記叙勲は本学より申請した者に限りますので、ご了承ください。

（総務部企画部人事課）

西尾章治郎教授が紫綬褒章を受章



平成23年秋の褒章授与において、大学院情報科学研究科の西尾章治郎教授が、11月3日発令で「情報科学に関する研究に努めて優れた業績を挙げ学術の進歩に寄与した」功績により紫綬褒章を受章しました。11月15日(火)に行われた褒章伝達式において、西尾教授は、文部科学省関係の紫綬褒章、藍綬褒章、黄綬褒章、緑綬褒章の受章者を代表して挨拶を行いました。

福住俊一教授が紫綬褒章を受章



平成23年秋の褒章授与において、大学院工学研究科の福住俊一教授が、11月3日発令で「電子移動化学に関する研究に努めて優れた業績を挙げ学術の進歩に寄与した」功績により紫綬褒章を受章しました。11月15日(火)に伝達式が行われました。

山下俊英教授「第29回大阪科学賞」受賞

医学系研究科の山下俊英教授が、第29回大阪科学賞を受賞しました。11月2日(水)に表彰式と記念講演が行われました。受賞理由は「損傷中枢神経回路の再生を制御する分子機構の解明と分子標的治療法の開発」です。山下教授は、脳や脊髄、視神経などの中枢神経が損傷すると回復が困難になる原因について研究し、中枢神経回路の再生を抑制する分子機構を世界に先駆けて明らかにしました。さらに、中枢神経疾患による神経症状を改善する薬剤の開発に取り組んでおり、有望な再生治療として注目を集めています。

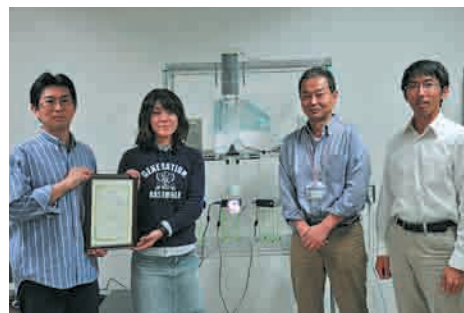
（医学系研究科・医学部）



井村誠孝准教授、八木明日華さん、黒田嘉宏助教、大城理教授「エンタテインメントコンピューティング2011論文賞」受賞

基礎工学研究科機能創成専攻生体工学領域井村誠孝准教授、八木明日華さん（博士前期課程1年）、黒田嘉宏助教、大城理教授が、10月7日(金)、9日(日)に日本科学未来館（東京・お台場）で開催されたエンタテインメントコンピューティング2011において論文賞を受賞しました。受賞の対象となった『運動視差を利用するインタラクティブ全方位フォグディスプレイ』は霧（フォグ）による光の散乱の指向性を利用することにより、ユーザの視点に応じた映像が提示可能なディスプレイであり、ユーザが霧に手を挿入することでバーチャルな物体に直接触れるようなインタラクションを実現しています。

（基礎工学部・基礎工学研究科）



左から井村准教授、八木さん、大城教授、黒田助教

吉元俊輔君、黒田嘉宏助教、井村誠孝准教授、大城理教授「生体医工学シンポジウム ベストリサーチアワード」受賞

基礎工学研究科機能創成専攻生体工学領域博士後期課程1年（現・後期課程2年）の吉元俊輔君、黒田嘉宏助教、井村誠孝准教授、大城理教授が、9月16日(金)に生体医工学シンポジウムベストリサーチアワードを受賞しました。受賞の対象となった「組織牽引支援のための歪み計測に基づく電気触覚フィードバック」は、術具の歪み計測に基づき、人工的な触覚を術者の指に重畳することが可能なシステムであり、組織の牽引状態を教示可能となりました。今後は脳神経外科手術への応用が期待されます。

（基礎工学部・基礎工学研究科）



左から黒田助教、大城教授、吉元君、井村准教授

齊藤輝彦君第「58回有機金属化学討論会・ポスター賞」受賞

基礎工学研究科・物質創成専攻・機能物質化学領域・有機金属グループの齊藤輝彦君（博士後期課程1年）が、9月7日(水)～9日(金)、名古屋大学で行われた第58回有機金属化学討論会でポスター賞を受賞しました。有機金属化学討論会で発表されたポスター（165件）の中から特に優れた研究結果の発表（18件）に授与されたものです。

この研究によって前周期遷移金属でも酸化還元活性な配位子を用いることで精密な電子移動反応が可能になることが明らかになり、新たな触媒反応への発展が期待できることが学術的に高く評価されました。

（基礎工学研究科・基礎工学部）



齊藤輝彦君「第61回錯体化学討論会・ポスター賞」受賞

岡山理科大学で行われた第61回錯体化学討論会で、基礎工学研究科・物質創成専攻・機能物質化学領域・有機金属グループの齊藤輝彦君（博士後期課程1年）が、「 α -ジイミン配位子を有するタンタル錯体の酸化還元挙動の解明と配位子からの1電子移動反応を伴った炭素ラジカルの発生」のタイトルでポスター発表を行い、その発表が高く評価されポスター賞を受賞しました。この研究は前周期遷移金属でも酸化還元活性な配位子を用いることで精密な電子移動反応が可能なることを明らかにし、新たな触媒反応への発展が期待できることから学術的に高く評価されました。

（基礎工学研究科・基礎工学部）



川野聡恭教授「平成23年度科研費審査委員表彰」

基礎工学研究科の川野聡恭教授が、独立行政法人日本学術振興会より、平成23年度科研費審査委員表彰されました。

科学研究費助成事業において、適正・公平に運営していくにあたって審査の質を高めていくことは大変重要となっており、そのために、日本学術振興会が設置している学術システム研究センターで、審査終了後、審査の検証が行われています。

その検証結果に基づき、模範となる審査意見を付した審査委員が、表彰されることとなっており、今年度は、約5,000名の第1段審査（書面審査）委員の中から、49名が選考され、本学からは川野教授が選ばれました。

10月20日（木）に、総長より、日本学術振興会からの表彰状及び記念品が手渡されました。（研究推進部研究推進課）



左から相本三郎理事・副学長、川野教授、平野俊夫総長

上原真依助教「第9回『美術史』論文賞」受賞

文学研究科文化表現論専攻芸術史講座の上原真依助教が、『美術史』第168冊掲載の論文「カルロ・クリヴェッリ作《カステル・トロジノ祭壇画》の再構成」により第9回『美術史』論文賞を受賞しました。世界各地で分割所蔵されている4点の板絵の本来の姿を、新たに確認した19世紀の史料から再構成した同論文は、美術史研究における1次史料の重要性を再認識させ、19世紀イタリアにおける美術市場研究に貢献したと高く評価されました。

（文学研究科・文学部）



第64回美術史学会（平成23年5月20日同志社大学）での表彰式

審良静男拠点長「吹田市長賞」受賞

免疫学フロンティア研究センター（IFReC）の審良静男拠点長が、吹田市長賞を受賞しました。

吹田市長賞は、吹田市に縁のある卓越した研究者・スポーツ選手などに贈られてきました。過去には、オリンピックマラソンのメダリスト高橋尚子氏、スケートのメダリスト高橋大輔氏などが受賞しています。

今回の審良拠点長の受賞は、今年度のカナダガードナー国際賞の受賞を受けたもので、哺乳動物における自然免疫の働きを解明したことが評価されました。

（免疫学フロンティア研究センター）



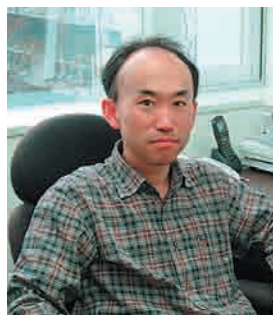
審良拠点長（左）と井上吹田市長（右）

荒瀬尚教授「免疫学会賞」受賞・馬場義裕准教授「第6回日本免疫学会研究奨励賞」受賞

免疫学フロンティア研究センター（IFReC）の荒瀬尚教授（免疫化学研究室）が、第14回日本免疫学会賞を受賞しました。

免疫学会賞は、「免疫学の進歩に寄与する独創的で顕著な研究成果を発表し、将来の発展を期待し得る優れた研究者」に与えられます。荒瀬教授は、NK、NKT細胞の機能、認識機構・活性化機構についての研究などが高く評価され、今回の受賞となりました。なお、第6回日本免疫学会研究奨励賞にIFReCの馬場義裕准教授（分化制御研究室）が選ばれました。

（免疫学フロンティア研究センター）



荒瀬教授



馬場准教授

青島貞人教授「高分子学会賞」受賞

理学研究科高分子科学専攻の青島貞人教授が高分子学会賞を受賞し、授賞式が第60回高分子学会年次大会において行われました。受賞研究は「新規リビングカチオン重合系の開拓および刺激応答性ポリマーの精密合成」です。青島教授は、新しいリビングカチオン重合法を開拓するとともに体系化を進め、さらにそれらを用いた刺激応答性ポリマーの精密合成という新しい研究分野を確立させました。これらの先駆的な成果が、国内外に大きなインパクトを与えたものとして高く評価されました。

(理学研究科・理学部)



青島貞人教授（右）

河田聡教授「第8回江崎玲於奈賞」受賞

フォトンクス先端融合研究センター長（兼）工学研究科の河田聡教授が「第8回江崎玲於奈賞」を受賞しました。受賞の対象となった研究主題は「近接場ナノ光学とプラズモニクス研究の開拓」で、河田教授は分子レベルで観察できる独自の光学顕微鏡を開発しました。これは自然の状態で分子を色として識別出来る画期的な発明です。

授賞式は10月13日(木)につくば国際会議場で行われ、茨城県科学技術振興財団の江崎玲於奈審査委員長から賞状が贈られました。

(工学研究科・工学部)



左から 江崎玲於奈審査委員長、河田聡教授
関正夫（株）関影商事代表取締役会長

嶋寺 光さん「第52回大気環境学会論文賞」受賞

今年3月に工学研究科 環境・エネルギー工学専攻博士後期課程を修了した嶋寺 光さん（現在、(財)電力中央研究所勤務）が、「第52回大気環境学会論文賞（学生・若手部門）」を受賞しました。

受賞対象となった研究課題は「森林地域における霧による硫黄および窒素沈着量の数値予測」です。9月に長崎大学 文教キャンパスで受賞式が開催され、大気環境学会長 坂本和彦先生（埼玉県環境科学国際センター総長）から賞状を授与されました。

(工学研究科・工学部)



木谷茂助教「平成23年度日本放線菌学会・浜田賞」受賞

生物工学国際交流センターの木谷茂助教が「平成23年度日本放線菌学会・浜田賞」を受賞しました。受賞の対象となった研究主題は、「放線菌における低分子シグナル伝達系を介した抗生物質生産制御メカニズムの解明」で、木谷助教は産業微生物である放線菌の抗生物質を生産する機構を解明したことが評価されました。

授賞式は9月8日(木)に札幌コンベンションセンターで行われ、日本放線菌学会の高橋洋子会長から賞状と受賞メダルが贈られました。

(生物工学国際交流センター)



受賞者記念撮影（木谷助教（左から3番目））

鎌田敏郎教授ら日本材料学会第11回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム「最優秀論文賞」受賞

工学研究科鎌田敏郎教授および大学院博士後期課程学生の新興洙君が「電磁パルス法によるフープ筋曲げ加工部の鉄筋破断の検出方法に関する基礎研究」と題する論文で、日本材料学会第11回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム最優秀論文賞を受賞しました。

この賞は、上記シンポジウム論文集に掲載された82編の査読付き論文の中で、内容が最も優れていると評価された最上位の1編に与えられる栄誉あるものです。

(工学研究科・工学部)



左から李君、鎌田教授、内田氏（佐賀大学）

池田雅夫名誉教授と藤崎泰正教授「2011年度計測自動制御学会著述賞」受賞

池田雅夫名誉教授（工学研究科機械工学専攻）と藤崎泰正教授（情報科学研究科情報数理学専攻）が、著書「多変数システム制御」（コロナ社、平成22年5月発行）により、9月15日(木)に「2011年度計測自動制御学会著述賞」を受賞しました。この本は、制御対象の状態方程式表現に基づく制御系設計法の概要をまとめたもので、たとえ数式を読み飛ばしたとしても小説のように通読できる理論の本であり、何を目的に何をするかという制御の考え方の本質が理解できる点などが、高い評価を受けました。

(工学研究科・工学部、情報科学研究科)



池田雅夫名誉教授（左）、藤崎泰正教授（右）

医学部附属病院「第8回日本e-Learning大賞 厚生労働大臣賞」受賞

医学部附属病院は、第8回日本e-Learning大賞（Japan e-Learning Awards 2011）において、厚生労働大臣賞を受賞しました。

今回の賞は、中央クオリティマネジメント部を中心に、文部科学省特別経費により、開発・導入を進めてきた医療安全教育を支援するためのラーニングマネジメントシステムやコンテンツに対して授与されたものです。

本年は75件の応募があり、本院の作品は、大学病院における診療と学習を両立させる優れたe-Learningの開発・実践例として高く評価されました。

(医学部附属病院)



大阪大学第一号磁界型電子顕微鏡が「重要科学技術史資料」に登録

国立科学博物館は、貴重な科学技術史資料の保存と活用を図り、次世代に継承していくことを目的として、重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）の登録制度を平成20年度より実施しており、今回新たに20件の資料を登録しました。その中に、大阪大学総合学術博物館所有の、1939年に本学工学部の菅田榮治助教授（当時）によって製作された「大阪大学第一号磁界型電子顕微鏡（関連資料を含む）」も選ばれています。

登録証の授与式が9月27日(火)に東京上野の国立科学博物館においておこなわれ、本学からは江口理事・副学長（前館長）、高橋准教授と西准教授（超高压電子顕微鏡センター）が出席しました。

(総合学術博物館)



左から、菅田榮治氏のお孫さん、西准教授（超高压電子顕微鏡センター）、江口副学長（前館長）、菅田榮治氏のお孫さん、高橋准教授（博物館）

新教授紹介

大久保 忠恭 (おおくぼ ただやす)

大学院薬学研究科



【略歴】

- 昭58. 3 大阪大学理学部化学科卒業
- 60. 3 大阪大学大学院理学研究科前期課程修了
- 63. 9 大阪大学大学院理学研究科後期課程修了
- 63. 9 株式会社蛋白工学研究所研究員
- 平 7. 4 北陸先端科学技術大学院大学助教授新素材センター
- 10.12 大阪大学助教授大学院薬学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院薬学研究科
- 23.10 大阪大学教授大学院薬学研究科

所 属：大学院薬学研究科分子薬科学専攻高分子化学分野

専門分野：構造生物学、生物物理化学

谷 口 正 輝 (たにぐち まさてる)

産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジーセンター



【略歴】

- 平 8. 3 京都大学石油化学科卒業
- 10. 3 京都大学大学院工学研究科分子工学専攻博士前期課程修了
- 13. 3 京都大学大学院工学研究科分子工学専攻博士後期課程修了
- 13. 4 日本学術振興会特別研究員
- 14.11 大阪大学助手産業科学研究所
- 19. 4 大阪大学助教産業科学研究所
- 20. 5 大阪大学准教授産業科学研究所
- 23.10 大阪大学教授産業科学研究所

所 属：大阪大学産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジーセンターバイオナノテクノロジー研究分野

専門分野：単分子科学、ナノテクノロジー

後 藤 竜 司 (ごとう りゅうし)

大学院理学研究科



【略歴】

- 昭63. 3 東京大学理学部数学科卒業
- 平 2. 3 東京大学大学院理学系研究科数学専攻修士課程修了
- 4. 4 日本学術振興会特別研究員 (H5.3まで)
- 4.11 東京大学大学院数理科学研究科数理科学専攻博士課程修了
- 4.11 博士(数理科学) (東京大学)
- 5. 4 大阪大学助手理学部
- 8. 4 大阪大学講師大学院理学研究科
- 12.10 大阪大学助教授大学院理学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院理学研究科
- 23.11 大阪大学教授大学院理学研究科

所 属：大学院理学研究科数学専攻大域数理学講座

専門分野：微分幾何学、複素幾何学

新教授紹介

近 藤 明 (こんどう あきら)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭57. 3 大阪大学工学部環境工学科卒業
- 59. 3 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士前期課程修了
- 59. 4 (株)松下電器産業生産技術本部生産技術研究所に勤務
- 平元. 2 大阪大学助手工学部
- 10. 4 大阪大学助手大学院工学研究科
- 11. 5 博士(工学)の学位授与(大阪大学)
- 12.12 大阪大学講師大学院工学研究科
- 13.10 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院工学研究科
- 23.11 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科環境・エネルギー工
学専攻共生環境評価領域

専門分野：環境工学、大気環境

佐藤邦彦名誉教授(工学部)逝去



本学名誉教授佐藤邦彦先生は、病氣療養中のところ、平成23年10月20日に逝去されました。享年86歳でした。

先生は、昭和22年9月東京帝国大学第一工学部船舶工学科を卒業し、昭和23年3月大阪大学工学部文部教官に任ぜられ、昭和26年12月同助教授を経て、昭和39年8月同教授に就任、溶接工学第3講座を担当し、昭和46年4月同大学工学部附属溶接工学研究施設教授、昭和47年5月同大学溶接工学研究所教授、昭和48年4月より同大学工学部教授を歴任し、昭和63年3月停年退官されました。その後、昭和63年4月福井工業大学教授、平成2年4月学校法人鉄鋼学園産業技術短期大学学長、同法人理事並びに

評議員に就任し、平成10年3月まで大学運営にご尽力されました。

先生は、溶接を中心とした鋼構造分野の産業界における開発研究において指導的役割を果たし、我が国の造船に代表される重工業分野において国際競争力のある高品質な溶接鋼構造物の生産の実現などに多大な貢献を果たされました。この業績により、2回の溶接学会論文賞、造船協会賞、日本非破壊検査協会論文賞、日本鋼構造協会業績表彰、さらに溶接・接合分野における学術の基盤強化や発展に大きく貢献したことで溶接学会賞を受賞するなど、多くの学協会で高く評価されました。また、平成16年には瑞宝中綬章を授与されました。

教育面では永年にわたって広い視野と高邁な識見で、一貫して我が国の溶接工学の教育研究に力を注がれ、多くの優れた人材を世に送り出しました。

学内においては、昭和59年7月から2年間、大阪大学評議員を務め、また、工学研究科大学院問題委員会委員長、溶接工学研究所運営委員会等を歴任し、大阪大学の発展、運営に尽力されました。

先生の長年のご功績を偲び、また、多くの研究者を温かい目で育成いただいたことを感謝し、ここに謹んで哀悼の意を表します。

(工学研究科・工学部)

記念講義(最終講義)

平成24年3月31日限りで定年等により退職される教授の記念講義（最終講義）を、日程等が決まったものについてお知らせします。

部局（講座・部門等）	氏 名	日 時・場 所	講 義 題 目
人間科学研究科 （人間行動学講座 対人社会心理学分野）	大 坊 郁 夫	平成24年2月10日（金） 15:00～16:30 大阪大学コンベンションセンター 会議室1	Well-being の心理学 ーコミュニケーション研究を踏まえてー
法学研究科 （比較法政講座）	山 下 眞 弘	平成24年1月17日（火） 14:40～ 大学教育実践センター 大講義室	アウトな事業譲渡と会社分割 ー商法・会社法による解決の限界ー
理学研究科 （数学専攻 大域数理学講座）	藤 木 明	平成24年3月23日（金） 15:00～16:30 理学部大講義室（D501）	研究生生活を振り返って
理学研究科 （物理学専攻 物性物理学講座）	大 貫 惇 睦	平成24年3月2日（金） 10:00～11:30 大阪大学会館 講堂	単結晶育成と重い電子系の物理
理学研究科 （物理学専攻 量子物理学講座）	赤 井 久 純	平成24年3月2日（金） 13:00～14:30 大阪大学会館 講堂	計算機物理
理学研究科 （生物科学専攻 相関生物学講座）	金 澤 浩	平成24年3月17日（土） 14:00～15:30 大阪大学会館 講堂	イオンを運ぶ細胞の膜タンパク質を 研究して
理学研究科 （宇宙地球科学専攻 宇宙惑星進化化学講座）	松 田 准 一	平成24年3月16日（金） 16:00～17:30 理学部大講義室（D501）	私が選んだ私の三大論文 ー研究生生活を回想してー
理学研究科 （現理事・副学長）	東 島 清	平成24年3月2日（金） 14:50～16:20 大阪大学会館 講堂	物理学に志して
医学系研究科 （医学専攻 病理学講座病態病理学教室）	青 笹 克 之	平成24年 2月29日（水） 15:00～17:00 医学部講義棟A講堂	病理学 37 年
医学系研究科 （医学専攻 社会環境医学講座法医学教室）	的 場 梁 次	平成24年 2月21日（火） 16:00～17:30 医学部講義棟A講堂	突然死の研究 ～青壮年から乳幼児へ・病死から 覚醒剤へ～

部局（講座・部門等）	氏 名	日 時・場 所	講 義 題 目
医学系研究科 (医学専攻感染免疫医学講座 免疫動態学教室)	宮 坂 昌 之	平成24年 3月 5日(月) 15:00～17:00 医学部講義棟A講堂	リンパ球動態を規定する分子機構： ドグマとエニグマ
工学研究科 (マテリアル生産科学専攻 生産プロセス講座、複合化 プロセス工学領域)	西 本 和 俊	平成24年2月3日(金) 15:00～17:00 岡田メモリアルホール (工学部R棟)	溶接研究四十年
工学研究科 (マテリアル生産科学専攻 構造機能制御学講座材料精製 工学領域)	松 尾 伸 也	平成24年1月31日(火) 13:00～14:30 岡田メモリアルホール (工学部R棟)	白い雲は流れて
工学研究科 (電気電子情報工学専攻 集積エレクトロニクス講座 原子分子操作組立領域)	森 田 清 三	平成24年2月9日(木) 15:00～16:30 吹田キャンパス電気系E1-115 (メモリアルホール)	原子を観て、識別して、動かして 組み立てる ーライフワークを探し求めて30年ー
工学研究科 (附属原子分子イオン制御理工 学センタープラズマ粒子制御 研究部門)	岡 田 成 文	平成24年2月3日(金) 13:00～14:30 材料開発物性記念館 2F研修室(R4-213)	磁場反転配位プラズマと30年
基礎工学研究科 (物質創成専攻 化学工学領域 環境・ エネルギーシステム講座)	井 上 義 朗	平成24年3月9日(金) 15:00～17:00 基礎工学国際棟シグマホール	ミキシングの不思議と流体の たくらみ
基礎工学研究科 (システム創成専攻 数理科学領域統計数理講座)	白 旗 慎 吾	平成24年3月16日(金) 15:00～ 基礎工学国際棟シグマホール	ノンパラメトリックス 40 年
情報科学研究科 (ディペンダビリティ工学講座)	菊 野 亨	平成24年3月9日(金) 15:30～17:00 銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール	「先読み」を追い求めて30年
生命機能研究科 (個体機能学講座 ヒト細胞生物学グループ)	田 中 亀代次	平成24年3月16日(金) 15:00～ ナノ棟3階講義室	細胞に学ぶ：色素性乾皮症研究に 魅せられて36年
連合小児発達学研究科 (こころの発達神経科学講座分子生 物遺伝学研究領域(医学系研究科 解剖学講座(神経機能形態学)))	遠 山 正 彌	平成24年3月15日(木) 15:00～16:30 医学部講義棟A講堂	「青斑核ノルアドレナリンニューロン から心の障害の克服まで」(仮)
ラジオアイソトープ 総合センター	斎 藤 直	平成24年3月9日(金) 15:00～16:30 ラジオアイソトープ総合センター 吹田本館大講義室	放射線と放射性核種の利用から 管理へ

部局（講座・部門等）	氏 名	日 時・場 所	講 義 題 目
総合学術博物館 （現理事・副学長）	江 口 太 郎	平成24年2月24日（金） 15:30～ 大阪大学会館講堂	分子からマチカネワニへ旅して
大学教育実践センター （キャリア教育支援部門）	木川田 一 榮	平成24年2月17日（金） 14:40～16:10 ステューデント・コモンズセミナー室1 （実践センター教育研究棟 I 2階）	世界に遊び 古典に学び 対話に観る
大学教育実践センター （FD推進部門）	山 成 数 明	平成24年2月17日（金） 16:20～17:50 ステューデント・コモンズセミナー室1 （実践センター教育研究棟 I 2階）	大阪大学で歩んだ 35 年
保健センター	太 田 妙 子	平成24年2月8日（水） 14:40～16:10 大阪大学会館 アセンブリーホール	「箕面学舎の春秋 ～卒後 40 年を振り返って～」
コミュニケーションデザイン・ センター	小 林 恭	平成24年2月15日（水） 10:30～12:30 ステューデント・コモンズセミナー室1	大学の教育研究を通じて成してきた 一つの事と現場力研究会について

「待兼山俳句会」のご案内

大阪大学 OB の俳句会「待兼山俳句会」は第 500 回記念句会を迎えたのを機に大阪大学の教職員の皆さまにもご参加頂ける会になりました。俳句にご関心をお持ちの方々は下記へメールをください。

【お問い合わせ】

svka10950@zeus.eonet.ne.jp

待兼山俳句会世話人代表 山戸暁子



訂正とお詫び

阪大 NOW No.127（2011 年 10 月号）掲載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正するとともにお詫び申し上げます。

P.53 「新教授紹介」松島 法明 教授の所属部局

（誤）大学院医学系研究科

（正）社会経済研究所



INTERVIEW

ふく だ かず お
福田 和夫

身近に自然がある喜びを 子ども達に知ってほしい

基礎工学研究科化学工学領域質量分析室技術専門員

「研究が真理の探究を対象とするのに対し、技術は、人間の生活が便利になるように人間を相手にしているものと言えます。」と説明してくれた福田さんは、技術職員として、質量分析（試料をイオン化することにより、分析できるようにし、元素の組成を明らかにすることができる）一筋 42 年のベテランで、分析は年間 2500 件ほど手がける。学生実験も指導しながら、化学工学領域のサーバ管理も担当しています。

そんな福田さんが取り組む、野鳥の観察を通した「環境保護」の取組みについてお話を伺いました。

■ 環境保護への関心の始まり

自宅のある京都府南部で、平成 5 年頃に関西学研都市木津北地区開発に先立つ環境アセスメントが実施された。その調査で、自宅の里山に「オオタカの巣」が見つかった。オオタカといえば食物連鎖の頂点に位置する猛禽類であり、生態系の自然が健全でないと生息できないことで知られる。そのオオタカが、自宅近くで営巣していたことに驚いた。そのような豊かな自然が身近にあること、そしてまさにそれが壊されようとする現実を知り、野鳥をはじめとする、動植物をとりまく環境の保護に関心を持つようになり、「（公財）日本野鳥の会」（奈良支部）との出会いにつながった。

■ 活動について

「日本野鳥の会奈良支部」では月例の探鳥会の開催のほか、奈良県一斉のガンカモ調査も手がける。今年 6 月には、奈良県との協働事業として大峰山系（奈良県南部）にてコマドリ生息調査を実施した。その結果、20 年前と比較して 10 分の 1 にコマドリが激減していることに驚かされた。

県からの依頼で、野鳥の会が奈良市内の小学校で野鳥や自然保護に関する授業を開催することもある。午前中に授業、そして午後から野外に出て実際に野鳥を観察する。「小学生の記憶力は素晴らしいですね。あっという間に野鳥の



大峰山にて

名前を覚えてしまいます。多くの野鳥を指しながら楽しげに名前を当てる姿を見て、身近に自然がある喜びを持ち続けてほしいと思い

ました。」

その他、矢田丘陵（大和郡山）では里山再生事業にも携わる。「矢田丘陵は、昔は里山としての風景を保っていたのですが、長年、竹林が放置され、竹藪状態になってしまっています。月に 2 回くらいずつ伐採の活動を続けて 6 年ぐらいになります。野鳥が集まるため池もでき、太陽の光を浴び自然発芽による多くの木々も芽吹き始めようやく生物の多様性ができあがりつつあります。」

■ こんなところにも！

実際に中山池（豊中キャンパス）畔で野鳥について教えていただいた。「野鳥を分かっている人と観察に行くと、『この環境ならどんな鳥がいるはずだ』という視点で鳥を探すので非常に見つけやすいし、理解しやすいんですよ。」と話し、池を指さしたり、鳴き声を聞き分けながらモズやセグロセキレイについて解説してくれた。なんと清流に住んでいると思っていたカワセミも見ることができた。



■ これから

野鳥の会では「調査」や「報告書作成」といった作業もこなし、自身の職業が「大学の技術職員」だったからこそこなせた面もあるだろうと振り返る。

これからの目標や、取り組んでみたいことについて聞いてみた。「今まで手を付けたものをやり遂げることを大事にしたいです。子ども達への自然観察や里山再生など、時間がかかるものがあるので、とにかく続けていくことを大事にしたいと思っています。」

オランダ・グローニンゲンからのレポート

グローニンゲン教育研究センター

中 野 生 穂

2010年11月よりグローニンゲン教育研究センターに勤務しています事務職員の中野と申します。ここ数ヶ月の出来事をダイジェストで振り返り、今回の私の海外拠点だよりとさせていただきますと思います。



■ グローニンゲン訪問団

今年（2011年）8月から9月にかけては、グローニンゲン大学夏期短期語学研修プログラム、および第2回日蘭学生会議参加の本学学生、同会議基調講演のための肥塚隆駐オランダ大使、また関西より訪欧高等教育調査団の方々の訪問もあり実に多くの方がグローニンゲンに来られました。

まず今年度が6回目となるグローニンゲン大学短期語学研修プログラムでは、8月22日より9月10日の約3週間8名の学生がグローニンゲンに滞在しました。英語学習の成果につきましては前号の本誌キャンパスニュース内にも報告させていただきましたが、授業以外のエクスカージョンプログラムも充実しているのが本プログラムの特徴の一つです。バスでオランダ干拓の歴史を巡る研修ツアー、アムステルダムでの美術館訪問、ユトレヒトでのディック・ブルーナ・ハウス訪問、今年度は近郊の日系企業訪問としてキッコーマン・ヨーロッパフーズも訪問しました。また参加学生より非常に評判の良かったイベントとして週末のオランダ人の家庭訪問があります。当日は最寄り駅より馬車に乗ってホストファミリー宅まで移動し、オランダの伝統的ボールゲーム体験、オランダの家庭料理を囲んでの夕食会等、一同非常に楽しい時間を過ごしました。

9月13日から9月19日まで第2回日蘭学生会議参加のため、15名の学生がグローニンゲンに滞在しました。今回は「働くこと」をテーマに2日間にわたり活発なディスカッションが行われ、滞在中には様々なイベントも実施さ



ユトレヒトへのエクスカージョン

れました。うち9月19日には三菱重工業株式会社が建設中のオランダ最大規模の火力発電所を訪問し、本学欧州同窓会の会員でもある同発電所建設責任者・池辺公智氏（本学工学部卒業・三菱重工株式会社）に施設案内



オランダ干拓の歴史を巡るバス研修旅行

等をしていただきました。

また9月9日には、公益法人関西生産性本部より高等教育調査の目的で主に在関西の大学、および教育関連企業を中心に15名の調査団員の方々がグローニンゲン大学を訪問されました。当日は、グローニンゲン大学S. Poppema学長はじめ4名の同大学教職員の方々による大学紹介と高等教育に関するプレゼンテーション、および同大学本部棟にて夕食会を開催していただきました。

この様に多くの方々にグローニンゲンにお越しいただくのは大変嬉しいことですし、センター業務を通じていろいろな方にお会いできるのはとても楽しいことです。



訪欧高等教育調査団の
グローニンゲン大学訪問

三菱重工業（株）建設中の
火力発電所訪問（設置前の
巨大タービンの前で）



■ 留学フェア参加

10月5日アムステルダム上級職業学校で開催されたアムステルダム大学・同上級職業学校合同の留学フェアに在オランダ日本大使館の日本ブースに合同で参加させていただきました。当日は本国の他、各国の大使館、インターンシップ関連、語学学校等合計57のブースが出演され会場全

体が熱気につつまれた非常に活気あるイベントでした。日本ブースも人気で100名ほどのオランダ人学生が立ち寄り準備した本学関連の冊子等もほぼすべて持ち帰られました。今年の日本は大震災、原子力発電所事故等いろいろありましたが、それでも多くのオランダ人学生が日本の国力を評価し、興味を持ってくれていることを非常に嬉しく思いました。当日は日本のこと、本学のこと、本センターのことを宣伝する大変良い機会となりました。

また11月25日にはロンドン・The Royal Societyで開催されました慶応義塾大学主催、ブリティッシュ・カウンシル協賛の日本留学フェア“Experience Japan Exhibition”に本学のブースを出展しました。当日は日本留学に関心のあるイギリス人学生、日本人学生、保護者および教育関係者が訪れ、主催者側の公表数によると475名の来場者があり、入場待ちの行列ができるほど大盛況のイベントでした。本学ブースも訪問者が絶えないほど人気があり、主にグローバル30プログラムを中心に本学留学に関する説明を行いました。留学フェア前日の24日には、ブリティッシュ・カウンシルでネットワークレセプションが開催されたので、両日を通じ多くの日本およびイギリスの教育関係者の方々と情報交換する機会もあり、非常に充実したロンドン滞在となりました。

この12月にも在欧州の各インターナショナルスクールでの本学入試説明会、ボン大学での留学フェア参加の予定がありますので、機会あるごとに本学の広報、宣伝活動にも勤めたいと思います。



アムステルダムでの
留学フェア参加



ロンドンでの
日本留学フェア

■ 大阪大学欧州同窓会

今年度の本センターの大きな取り組みの一つとして2011年6月18日に第1回大阪大学欧州同窓会および総長との交流会の開催がありました。組織の立ち上げに加え、ドイツ・ベルリンでの開催、また会場が3か所（ホテルマリタイム・日本国大使館・オペラ宮）あったこともあり準備の段階で大変なこともありましたが、多くの方々にご協力いただき盛大な会となったことは、私にとって大変貴重な経験となりました。

ベルリンでの同窓会にイタリアより唯一ご参加いただきました山口透氏（本学経済学部卒業・三菱東京UFJ銀行

ミラノ支店）のご協力のもと、翌7月23日にミラノにてイタリア地域の同窓会を開催いただきました。私自身、昭和会会員でもあり、この同窓会に参加させていただきましたが、食事も美味しく話も弾み非常に楽しい会でした。併せましてイタリア地域よりまとめて15名の方の新規会員登録がありました。

また11月20日にはグローニンゲンにおいても在オランダの会員の方々を中心に地域の同窓会を開催致しました。当日は、グローニンゲン市内の日本食レストラン花里にて、大人10名、お子様2名が集まりました。グローニンゲン大学に留学中の本学学生も交え、非常にアットホームな雰囲気の良い会となりました。

11月25日には、ロンドンにて欧州同窓会イギリス地域代表の古川修氏（大阪外国語大学卒業・日本トランスユーロ）、鈴木憲教授（本学大学院医学系研究科修了・ロンドン大学）を交え、弘津センター長と共に、次回ロンドンでの地域同窓会の開催に向けて打合せを行いました。

大阪大学欧州同窓会は、まだ新しい組織ですが、この様に欧州に本学同窓会の輪が広がっていくのは嬉しいことです。これからも事務局として可能な限りサポートしていきたいと思います。



7月ミラノでの
地域同窓会



11月オランダでの
地域同窓会

■ 最後に

グローニンゲンの良いところは、治安が良いこと、街並みが非常に美しいこと、街中どこでも英語が通じるということ、人々が親切なこと等たくさんありますが、私もこちらにきて早1年が経ちましたが、住めば住むほどグローニンゲンが大好きになります。グローニンゲン大学国際部の担当者の方々はじめ同大学教職員の皆様、本センターと同じビル内のオフィスに勤務されているオランダ人の方々、皆様とても親切で、協力的でいつも感謝しながら日々の業務に勤めています。

人口約19万人のうち約4分の1が学生と言われているアカデミックな雰囲気の大学街、グローニンゲンへの留学や研究滞在もグローニンゲン関係者の一人としてもお薦め致します。そのためにも本センターも可能な限り協力させていただきたいと思います。これまでの1年目の経験をもとに微力ながらこれからも本センター運営に益々邁進して参りたいと思います。

ジョージア大学

The University of Georgia, Athens (略称はUGA)



概要 ジョージア大学（以下UGA）は、1785年にアメリカ合衆国で最初の州立大学として創立され、現在は15学部からなる伝統ある総合大学です。米国南部最大の都市である州都のアトランタから、北東に車で約1時間のアセンズ（Athens：アテネ）という大学町にあります。



という大学町にあります。気候は関西と同じぐらい温暖で住みやすく、学生数約3万5千人（学部生約2万6千人、大学院生約9千人）で、過去40年間、とりわけ過去10年間の発展が目覚ましく、キャンパスの拡張・拡充、国際交流プログラムの拡充が図られてきました。全学の留学生の出身国は127カ国にのぼります。

教育環境 UGAで勉強できるのは、農業環境科学、芸術学、人文科学、社会科学、生物科学、物理科学、経営学、教育学、環境デザイン学、家族消費科学、森林天然資源学、ジャーナリズムとマスコミ、法学、薬学、公共衛生学、ソーシャルワーク、獣医学の分野で、現在79種類もの学位が取得可能です。2012年にはジョージア保健科学大学との協働で医学部の施設もアセンズにできるようです。

学部1年生が全寮制であるため、学生生活を支える施設が整備・拡充されています。美しい「学生村」だけでなく、24時間対応のラーニング・センターの施設は評判が高く、

充実した図書館と共に学生の勉学をサポートしています。

大学評価 UGAは、2012年の全米公立大学ランキングで23位タイです。全米大学において海外派遣学生数で9位でした。また「これから期待できる大学」の全米11位でした。中でも優秀な経営学、教育学、ジャーナリズム、法学、公共政策学の各大学院は全米4位～50位の間と評価されています。（以上U.S. News & World Report社）また、2001年に独立したユニークな景観建築学科の「Landscape Architecture Program」は全米10位と紹介されています。（The Best Colleges）

文化と人々 UGAは、音楽やスポーツが盛んで、キャンパスにできた本格的な劇場や、美術館も魅力的です。また南北戦争の歴史や、人種差別撤廃運動、『風と共に去りぬ』の舞台、またコカコーラやCNNの本社があるアトランタに近いことなど、地域的にも米国南部の魅力満載です。「南部訛り」と言われる英語方言には最初面食うかもしれませんが、「南部のもてなしの心 Southern Hospitality」という言葉があるほど、人々は一般的におっとりしていて明るく親切です。



大学HP：<<http://www.uga.edu/>>

紹介者：真嶋潤子（世界言語研究センター教授、日本語教育学）

jmajima@world-lang.osaka-u.ac.jp

編集後記

今号より、「キャンパスニュース」、「表彰等」をコンパクトにまとめて皆様にお送りしております。これまで、ページ数の増加により手に取っていただきにくいボリュームとなっておりましたので、記事1件あたりのボリュームを圧縮することにより、ページ数の削減を図りつつ、できるだけ多くの記事を掲載させていただくこととしています。

引き続き、阪大NOWをよろしくお願いいたします。

（柿木）

ソフトボール部

目指せ！1部優勝！インカレ制覇！



みなさん、こんにちは！

大阪大学ソフトボール部です。私たちは現在、関西リーグの1部に所属し、1部優勝、インカレ優勝を目標に活動しています。多くの方がソフトボールをやったことや見たことがあると思います。そのため、野球やソフトボールの経験のない初心者の方でも気軽に始められるスポーツです。現部員の中にも初心者だった者もいます。もちろん野球経験者の方の期待を裏切ることはありません。ウインドミルと呼ばれる下手からの投法から野球の140km/hを超える体感速度の速球や、浮き上がるライズボールなどソフトボール特有の世界を味わうことができます。

我が部が出場する大会は、春と秋に行われる関西リーグのリーグ戦、社会人を含めた全国のトップを決める全日本総合、国公立大学が集まって行われるオープン戦、七大学が集まって行われる七大学戦、インカレ、西日本インカレなど試合をする機会も豊富にあり、楽しく活動出来ています。

今年は春のリーグ戦でブロック優勝を果たし、1部2部の入れ替え戦を制し1部昇格を決め、秋のリーグ戦では昇格直後にもかかわらず最後まで優勝争いに絡むも、惜しく

も準優勝となりました。また、その他の大会においても、格上の社会人チームに勝利するなど、上々の成績を収めることが出来ました。

それ以外にも合宿、飲み会などイベントもたくさんあり、厳しい練習だけではなく楽しくやる、ということを重視しています。

このように我々ソフトボール部は楽しさと勝利を追い求め、日々練習に励んでいます。是非一度、試合や練習を観に来てください。



主将 久我慎太郎(工3回生)

〈コメント〉

今春に1部昇格を成し遂げた我々ソフトボール部は、その勢いそのままに秋に1部準優勝を成し遂げた。その偉業を知る者は少ないが、これからの活躍にも乞うご期待☆



練習場所：豊中キャンパスグラウンド・テニスコート横
練習日時：月、水、木曜日：16：10～19：30（4限終了後）
土曜日：9：00～12：30
部員数：選手：4回生6名、3回生7名、2回生7名、1回生5名
マネージャー：3回生2名、1回生2名
連絡先：主務 里圭人:world-heritage-site17@docomo.ne.jp
HP：http://osaka-univ-softball.jimdo.com/

トピックス

第6回ホームカミングデイを開催しました

11月6日(日)、東日本大震災の影響により当初の5月開催予定から延期しておりました第6回目となる本年のホームカミングデイを、まちかね祭の開催に合わせ、豊中キャンパスにおいて開催いたしました。

時折雨が降るあいにくの天候にも関わらず、卒業生とご家族やご友人など約230名の方々がキャンパスを訪れました。

会場である大阪大学会館(旧イ号館)入り口では、ご来場いただく諸先輩や来賓の皆様を応援団員が笑顔で出迎え、歓迎ムードが漂う中、セレモニーが始まりました。

江口太郎理事・副学長の司会で、応援団による学生歌演奏、演舞により開幕しました。

平野俊夫総長の主催者挨拶・近況報告、熊谷信昭同窓会連合会会長(元総長)の挨拶に続き、本年は、多田羅浩三名誉教授により「わが母校の伝統と教え」と題して基調講演が行われ、懐徳堂、適塾を源流にもつ本学の伝統と、現代に続く教えについて、史料に基づき分かりやすく解説いただき、大阪大学が他の帝国大

学とは違い「創られた大学ではなく大阪の町が育てた大学ということが出来る」と述べられました。

その後、場所を図書館下食堂に移しての懇談会は、法学部卒業生の西川善文氏(株式会社三井住友銀行顧問)による乾杯のご発声で開会しました。

会場では、学生軽音楽サークル「SWING」の軽快な音楽をBGMに、参加された方々の思い出話にも大いに花が咲き、会場内では旧交が温められ、終始和やかな雰囲気の中での散会となりました。

ご来場いただいた方々の中には、引き続き、ご卒業された学部と同窓会のイベントやまちかね祭のイベントに参加される方、「総合学術博物館第14回企画展」の中の「わたし」と情報の中の「私」に参加される方もおられ、母校で一日を過ごされる姿が多くみられました。

ご多忙のところご来場いただきました皆様には、厚く御礼申し上げます。

(広報・社会学連携オフィス広報・社会学連携事務室)



挨拶をする平野総長



熊谷元総長による挨拶



多田羅名誉教授による講演



応援団による演舞



懇談会で卒業生に囲まれる平野総長